

---

# ある日、全部が失くなった。

亞郁

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある日、全部が失くなった。

### 【Nコード】

N3776BA

### 【作者名】

亞郁

### 【あらすじ】

ある日、一人の殺し屋によつて全てを失くした少年。

復讐のため自分もその世界へ足を踏み入れる。

いつも通り依頼を受け、少年は標的の男の元へ。

そしてひょんなことから同居を始めた二人。

そしてなんだかんだ楽しい同居生活が終わりを迎えるとき、二人は

…

## Prologue 絶望

この日は珍しく母親の声では起きなかった。

不思議な思いで目を覚ました幼い少年の瞳には、窓から洩れる僅かな光しか映らず、代わりに身体の上のしかかる重みと母親の匂いを感じた。

そのとき、少年は母親が自分の上に覆い被さっていることをしる。しかし何故？

声をかける。反応はない。

今度は母親の背中に手をまわして軽く叩く。

びちゃっ。

有り得ない音がした。

母親を力いっぱい押し横に倒すとどん、と母親が横の”ナニカ”にぶつかつた。

寝ぼけ眼の少年は自身の手に目をやる。

赤、赤、赤。

ぶわっとな汗が出る。

上体を起こしゆっくりと顔を上げた。

そこにはいつもと違う真っ赤になった部屋と、いつも通りの父と母の寝顔があった。

もう二度と目覚めることのない、父と母の寝顔が。

.

## Episode 1 孤独

初夏独特の涼しいような少し生温いような風が、都心の街の狭い中を吹き抜けた。

人々は、これからやってくる夏に期待で胸を膨らませ、白やパステルカラーの明るい色合いの半袖の洋服やらサンダルやら、とにかく涼しげな洋服を纏っている。

そこにぽつんと一つ、黒いフードを被った長袖の黒パーカーが”点”のように浮き出ている。

黒い髪に黒いズボン、全身黒で固めたその”点”は、辺りの様子に小さくため息をついた。そして、ああ、うざったい夏がくる、と”点”<sup>カラス</sup> 鴉は思った。

もちろん、鴉というのは彼の本名ではない。”仕事”のときの名前だ。本名なんて、忘れてしまった。

もう長い間呼ばれていないのだから。

彼はこれから仕事に向かうところだった。

今日の仕事場は、金融業を営むごく一般的なとある中小企業だ 表向きは。

裏では暴力的な借金取りを行い、つい最近この企業が原因で自殺者が出た。

今日の依頼人はその自殺者の身内で、”標的”はその会社の者全員。

大通りから一本脇に逸れた道に入ると、ひんやりとした空気が鴉を

包んだ。

パーカーのフードの中から辺りをチラチラと見ていると、間もなく目的地の会社の古ぼけた看板が見えた。

2階建てのコンクリートでできたビル。その入口についた、趣味の悪い金色のドアノブを回す。

”標的”は20名程だと聞く。その情報は違っていかないようで、上から大きくて低い下品な笑い声が数多く聞こえる。

鴉は「うるせえ…」と小さく呟くと一歩、また一歩と階段へ足を進めた。

階段の前に着くとふう、と一息吐いてからポケットの中のものを確認する。

そして階段へ足をかけて、静かに2階へ向かった。

「コンニチハ」

鴉のふざけた挨拶に全員が部屋の入口の方へ振り返る。

「ガキ！何しに来やがった！！？」

「ここはお前みたいなのが来る場所じゃねえよ」

「おい、誰かこのガキつまみ出せ！」

口々に騒ぐ男達に、鴉はうるさいと言わんばかりの表情で口を開く。

「俺が殺し屋でも、か？」

鴉は折りたたみ式のナイフをポケットから出すと、パチンと開いて利き手の左手へ持ち変える。

先刻とは一変、男達の驚愕した表情を見た鴉はニヤリと口角を上げると、床を思い切り蹴って男達の方へ突っ込んで行った。

すぐにその部屋は静寂と”赤”に染まった。

鴉は、そこら辺の男の服で、ナイフにべつとりと付いた血液を拭い仕舞うと、掛けてあつた鏡を見てため息をついた。

そこにあつたのは返り血で真つ赤に汚れた自分の疲れ果てた顔であつた。(顔までこいつらの服で拭きたくねえよな……)

ぼんやりとそんなことを考えながら、階段の下に置いてきた鞆を、いそいそと迎えに行った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3776ba/>

---

ある日、全部が失くなった。

2012年1月9日22時51分発行